

水戸芸術館音楽紙 [ ヴィーヴォ ]

# vivo

10 OCTOBER 2002

## CONTENTS

ミト・デラルコ第5回演奏会 .....	1-2
バーバラ・ボニー / マリー クレール・アラン .....	3
野村 誠&箏衛門 .....	4
ネッタマ & Petite 情報 .....	5
インフォメーション .....	6



小島芳子氏がミト・デラルコ演奏会で使用する、  
クリストファー・クラーク製作のフォルテピアノ(本文参照)



## 特別編成のミト・デラルコがお届けする、“18世紀風”モーツァルト！ 10 / 12(土)ミト・デラルコ第5回演奏会

ミト・デラルコ、第5回演奏会は3人編成の演奏会。博覧強記の才人・パディアロフが退団し、寂しく思われる方も多いかもしれません。しかし、3人のアイデアは冴えわたります。3人編成なのだから、実演では聴く機会が少ない、モーツァルトの大曲 弦楽三重奏のためのディヴェルティメント K.563 をやるよ！それも、ミト・デラルコらしい仕掛けをほどこして…。Eメールでの熱心な議論の末に誕生した一夜のプログラム、果たしていかなるものなのか。ヴァイオリン・寺神戸 亮のエッセイが、その仕掛けを解き明かしてくれます。まずはご一読を。

.....  
音楽のデギュスタシオン(試飲会)  
.....

明日金曜日に、ハーディク伯爵がシュタードラー五重奏曲と、私があなたのために書いたトリオを聴かせてもらいたいということです。勝手ながら、それにあなたをご招待いたします。ヘーリングが弾きます。お伺いしてじかにお話ししたすべきなのですが、リュウマチ気味の痛みで頭がすっかり縛られているようで、このため私の状況が一層こたえて来ます。もう一度、この「う時(いつか)だけ、ご都合次第でお助けください。そして私をお赦し下さい。

1790年4月8日、裕福な音楽好きの商人でモ

ーツァルトやハイドンと親しく、またモーツァルトと同じくフリーメーソンに属していたミハエル・プフベルクに宛てた手紙の一部である。

ウィーンでの人気下がりが、かなりの困窮状態にあったモーツァルトはただ一人の頼れる友人であったプフベルクにたびたびこのような借財の申し入れをしている。

そしてこの手紙にはモーツァルトの死病の一徴候も見られ、ここだけ見ても当時モーツァルトがどのような状況にあったのかがよく分かる。

貧困や妻の病気、そして自分の体調不良などに悩まされながらも、モーツァルトは音楽活動を止めなかった。作曲だけでなく、貴族の子女にレッスンをしたり自身でも演奏をしたり、と休む間もなかったようだ。

このような厳しい状況の中で、その生活の苦しみ影すらも見られないような珠玉の作品が次々と生み出されていった。

今回メインとして取り上げる 弦楽三重奏のためのディヴェルティメント K.563 もその一つだ。前述の手紙からも分かるように、この作品は裕福な友人プフベルクのために書かれた。

動機は明らかではないが、多分返せない借金の肩代わりの意味もあったのではないだろうか。しかしそんな背景を忘れさせるほど明るく、しかも深い内容を持った作品だ。

フリーメーソンの同士であったプフベルクを意識してか、フリーメーソンの調、といわれる変ホ長調で書かれている。(フリーメーソンでは「三」という数字は重要で、そのためフラット3つの変ホ長調、シャープ3つのイ長調はモーツァルトにとって特別な意味を持っていたようで、この調を選ぶときの曲想にも共通性がある)

シャープ系の調を好む弦楽器(特にヴァイオリン)にとって変ホ長調は決して易しい調ではないが、開放弦があまり使えないため少しくもった、しかし温かみと深みのある調性である。

モーツァルトは弦楽三重奏曲をこの一曲しか作曲しなかったが、その書法は熟練していて、3つの楽器が対等に活躍し、しかも対話の妙味、協奏曲的スリル、そして弦楽四重奏曲のような重厚さまで幅広い響きと曲想を持っている。しかし、決してシリアスではなく「ディヴェルティメント(嬉遊曲)」の名のとおり、軽く、明るい曲想で統一されており、またメヌエットを2つと長大なヴァリエーション楽章を持つ6楽章構成の長い曲である。

この曲はモーツァルトの生前、何回か演奏されているようだが、どの回に誰が弾いたのか、正確に全部はわかっていない。この手紙から少なくとも分かることは、ヘーリングが弾いた、ということである。

ヘーリングは商人で、優れたアマチュアヴァイ

写真左から；  
寺神戸 亮、森田芳子、  
鈴木秀美、小島芳子



オリニストだった。となると、アマチュアとはいっても大変な技量の持ち主だった、ということになる。というのも、この曲のヴァイオリンパートは非常に高い技術を要求しているからだ。

チェロは前に同じ曲を演奏した際に、ハイドンの仕えていたエステルハーゼ侯の楽団のクラフト氏と仲間だけの四重奏団を組み、この曲を提供した、と妻のコンスタンツェに当てた手紙の中に書いているので、この曲の演奏の際には必ず名手クラフトが招かれたことも考えられる。むしろ、そう考えるのが自然なほど、チェロのパートも高い技量が求められ、充実している。

ヴィオラに関してはどこにも誰が弾いたとの記述がないが、これはモーツァルトが自分で弾いたからで、あえて書く必要がないほど明らかだったからだと思われる。

しかも、この曲で特に鍵となるのはヴィオラのパートである。弦楽四重奏曲におけるヴィオラパートよりもソロイスティックな役割を与えられているだけでなく、時には内声を、しかも弦楽四重奏曲でいうところの第2ヴァイオリンとヴィオラの両方のパートを一人で担う、というような離れ業もやってのけねばならない。そしてそのような多くの役割の間を行ったり来たりする変わり身の早さも要求され、単なるヴィオラを超えて、むしろアンサンブルの要となるパートである。これはまさに、ヴァイオリンの名手でもあり、ヴィオラもよくしたといわれるモーツァルトが自身で弾くことを計算に入れて書いたパート、とは言いえないだろうか。

さてこの「ディヴェルティメント」、古今の名曲であるという事実だけでなく、各楽器に求められる演奏技術の高さ、特に2楽章の深遠さ、弦楽四重奏曲ではなく弦楽器3つのみで中音域を埋めるものが少ない、ということによるアンサンブルの難しさ、そして何よりも6楽章構成という長大さ(演奏時間約50分)のために、演奏困難な作品として音楽家の間では畏れられているふしがある。

しかし、ディヴェルティメントというのは、「嬉遊曲」そしてオケイジショナル・ミュージック(機会音楽)ともいわれるように、夜会や祝典などの際に人々を楽しませる音楽として、時にはバックグラウンドミュージックのように人々の会話の声などにまぎれながら、延々と演奏されたものなのだ。だからこそ、メヌエツが2つもあって、華やかで楽しい気分を盛り上げている。実際にこの曲がそういった機会に演奏されたかは疑問だが、少なくともシリアスに「聴く」ための音楽ではなく「楽しむ」ための音楽であったことは確かだ。

今回、私たちはその「楽しむ」音楽としてのあり方の一つとして、ある趣向を用意した。

当時、音楽会自体の様相は今日のものとはずいぶん違っていたようだ。

現在、音楽会は、長さが普通1時間半から2時間、平日は夜6時半から7時ごろから始まるものと(少なくとも日本では)決まっている。しかし当時は貴族の客間で一曲だけ演奏することもあれば、劇場で3時間にもわたって大演奏会が催されることもあった。

そして今日と何よりも違うのは数楽章によって構成されている曲が必ずしも一気を通して演奏されたとは限らない、ということだ。

また現在、クラシックの演奏会において楽章間に拍手をしたり、会場を出入りしたりするのはご法度となっているが、当時はそうでもなかったようだ。

むしろ、見せ場がうまくいくと演奏中でも拍手をしたり、歌手が下手だと野次が飛んできたり、かなり騒々しくなる場面もあったらしい。

そして、交響曲などは前半と後半に分けたり、楽章ごとに他の曲をはさんで演奏されることは珍しくなかった。

このような当時の音楽会のあり方からヒントを得て、今回はモーツァルト時代のスタイルを取り入れて、架空の音楽会を企画してみた。

モーツァルトが親しい仲間を集めて、プフベルクのような親しい貴族、友人たちのために催すコンサート、時間を気にせず、心ゆくまで音楽を楽しむ。そんな音楽会にするために、メインの「ディヴェルティメント」を核としながらも、各楽章の合間に他の曲をはさんで、いろいろな味を楽しんでいただけのように構成した。ちょっと横道にそれでは本道に戻る、寄り道の楽しみ、あるいはつまみ食いの楽しみともいえようか。

モーツァルトの得意としたピアノを仲間に加え、モーツァルト自身の作品以外にも彼の尊敬するハイドン、そしてモーツァルトを尊敬していたベートーヴェンの作品などをちりばめながら、少々時間は長くなるが、極上の葡萄酒でも傾けながら聴くような「気持」で(残念ながらホールでは飲食できないので、開演前や休憩時間にカフェで“仕込んで”いただくとして)音楽のデギュスタシオン(試飲会)を楽しんでいたいただけたら幸いである。

2002年8月ブリュッセルにて  
寺神戸 亮

今回の演奏会は、ミト・デラルコ史上初めてフォルテピアノと共演することも大きな話題です。お迎えするのは小島芳子さん。フォルテピアノが「発展途上の楽器」ではなく、その時代の美学を反映した「完璧な楽器」であることを、魅力的に実感させてくれる名手です。ミト・デラルコのメンバー一人一人とはしばしば共演を重ねている、深い相互理解で結ばれた音楽仲間です。なお小島さんの演奏はCDではハイドン:ソナタ集(デンオン/アリアーレ) ベートーヴェン:ピアノとチェロのための作品全集(鈴木秀美との共演、ドイツ・ハルモニア・ムンディ)などで聴くことができます。

今回小島さんが芸術館に持ってくるフォルテピアノは、現代の名製作者、クリストファー・クラークの手になる18世紀末仕様の名器(表紙写真参照)。どんな楽器なのか、小島さん自身の紹介文をご一読ください。

ニュルンベルクのゲルマン博物館所蔵のアントン・ワルター(1795年頃)をもとに、1994年にクリストファー・クラークが製作した楽器です。注文して5年待ちました。

音域は5オクターヴと2音(F2 ~ g3)、オリジナルどおり「膝てこ」は左がダンパー、右がモデラート(ハンマーと弦の間に布を挟んで音色を変えるしくみ)です。ハンマーにはフェルトではなく鹿革がまいてあり、非常にシンプルで敏感なタッチです。基本的にはオリジナルに忠実ですが、わずかに狭くしてもらった鍵盤、装飾など世界にひとつしかない「小島芳子仕様」。クリアで輝かしい音色から、モデラートを使用したときの柔らかな「天上の」響きまで、ダイナミックレンジと色彩の豊かさはこの華奢なボディからは想像がつかないほどです。また、同じく木の箱に弦を張った構造をもつ弦楽器ととてもよくとけあい、音量の点からも、弦楽器奏者はやたらとがんばって弾かなくてもすむし、ピアニストはへんに遠慮する必要もありません。自然体でアンサンブルのたのしさを満喫することができます。

弦楽三重奏に加え、小島さんのソロ、2種の二重奏、ピアノ三重奏という5種類の編成で楽しむ“18世紀風演奏会”。どうぞお聴きのがしなく!館外公演のお知らせはインフォメーション欄をご覧ください。

《矢沢》



写真左から;  
バーバラ・ボニー、  
マリー・クレール・アラン

## ボニーの清らかな歌声が男声用リートに新たな光を当てる 10 / 14(月・祝)バーバラ・ボニーソプラノ・リサイタル

vivo 読者の皆様、お待たせしました! 東海村での臨界事故およびバーバラ・ボニー本人の体調不良により残念ながら中止となった1999年のリサイタルから3年、待望の水戸芸術館での公演が実現します。

ナタリー・シュトゥッツマン、アンネ・ソフィー・フオン・オッター等とならび、女声ドイツ・リート歌手の第一人者として、世界的な評価と惜みない喝采を獲得してきたバーバラ・ボニー。しかし、前回のリサイタル中止から現在までの3年の間、ボニーは第一人者としての地に安住することなく、さらなる歌の沃野を求めて活動を展開しています。グリーグ、シベリウス、ステンハンマル等の北欧歌曲、アンドレ・プレヴィンの献呈作品を含む近現代アメリカ歌曲、ジョン・ダウンドやウィリアム・バード等のイギリス・リート歌曲など、ボニーは新しいレパートリーに果敢に取り組み、ボニーならではの叙情味豊かな歌の世界で私たちに魅了してきました。そして今回の来日公演で私たちに新たに問うのが、シューマン 詩人の恋 などの男声用リ

ートの演唱です。

リートはそもそも、その詩によりジェンダー(性差)が明確なジャンルです。前世紀に活躍した大歌手ディートリヒ・フィッシャー＝ディースカウの「女性の視点で書かれた詩の歌は女声、男性の詩の歌は男声か歌うべき」という主張は、権威あるものとして長く受け止められてきました。

しかし、そうしたリートにおけるジェンダーの捉え方は、今確実に変化しています。ヨッヘン・コヴァルスキやドミニク・ヴィス等のカウンター・テノール歌手たち(コヴァルスキによるシューベルト 美しき水車小屋の娘 など)や、コントラルトのシュトゥッツマン(男声用も含むシューマン歌曲全集を録音中)の活躍により、ジェンダーが次第に曖昧になってきているのです。

こうした時代の流れの中、いよいよボニーが本格的に男声用リートに取り組み始めました。興味深いのはその声質です。前述のカウンター・テノール歌手たちやシュトゥッツマンは、女声とも男声とも聴ける中性的な声質を持っていますし、同じソ

プラノでもエリーザベト・シュヴァルツコップやジェシー・ノーマン等は芯の太い力強い響きを出すことが出来ます。一方、ボニーの声質はきわめて女性的なものと言えます。きめの細かい透明な声と、ニュアンスに富んだ柔らかい語り口によるボニーの歌唱が、シューマン 詩人の恋 ほか、シューベルトの三大歌曲集からの抜粋、リスト ラインの美しき流れに などの男声用リートにどのような光を当てるのかが大いに注目されます(リストでは女声用リートも取り上げられます)。

なお、リスト歌曲とシューマン 詩人の恋 を収録したボニーの新譜“While I dream”の国内盤が9月25日にユニバーサルミュージックから発売になります。リサイタルの前に聴くかどうか悩みどころですが…生で聴いて気に入ったら買うというのがベストでしょうか!?(当日はCD即売も予定しています。)

《関根》

## アランの伝説の1ページに「MITO」と刻まれる日がやってくる 10 / 28(月)マリー・クレール・アラン オルガン・リサイタル

圧倒的な説得力と魅力をもつ現代の数少ない巨匠とも呼べるオルガニスト、マリー・クレール・アランが遂に水戸芸術館に登場します。

アランについてまず思い浮かぶのが、29歳という若さでこの世を去った近代フランスのオルガン楽派を代表する作曲家ジュアン・アラン(1911-40)を兄にもつという点です。今日、私たちがこの作曲家の作品を耳にすることができるのは、まさにマリー・クレールの活動の賜物といえるでしょう。ジュアンが死んだとき、マリー・クレールは、まだ13歳でした。しかし、「ほとんどの作品の初演に立ち会っていた」という彼女は、その記憶が薄れないうちに、兄の作品をレコードに録音し、楽譜を出版したのです。

また、アランは、リサイタルおよびオーケストラとの共演で、今日までに世界中で2,300回以上の演奏会を行っており、世界のあらゆるオルガンを熟知しているといわれています。音楽評論家はそ

ろって、知的に優れた明澄な演奏、真摯で鋭敏な音楽性に基づいた曲の解釈を絶賛し、さらに「どんなオルガンで、どんな曲を弾く場合でも、アランほどすぐれたレジストレーションによってオルガンのもっている楽器の能力を的確に引き出すことのできるオルガン奏者は他にひとりもないであろう」と評しています。「音の魔術師」とも称えられるアランが、日本人ビルダー(マナ・オルゲウバウ)が丹誠を尽くして作り上げた水戸芸術館のオルガンをどのように響かせるのかということも、今度の演奏会の大きな楽しみです。

さて、今回アランが水戸のために用意したプログラムは 1. フランス古典期のオルガン音楽、2. J.S.バッハのオルガン音楽、3. フランス近代のオルガン音楽 というように大別できそうです。

フランス古典期は、バッハに代表されるドイツのオルガン音楽に劣らず名作が生み出されたオルガン音楽の黄金時代。演奏会では、この時期の

オルガン・ミサの集大成のひとつといわれるグリニ作品とバルバートルのノエルが取り上げられます。

オルガン音楽においてもひとときわ高くそびえ立つのがバッハの作品。驚くことにアランはこれまでに3度も全集を録音しており、その成果は「万人が認める不滅のバッハ・ディスク」といわれているのです。今回は、幻想曲とフーガ イ短調 など5曲が演奏されます。

19世紀以降の音楽のあゆみのなかで、フランスほどオルガン音楽の花が咲いた地域は他にありません。(後頁「ネットマ」でも触れています。)今回アランは、フランス近代オルガン音楽の祖であるフランク作品、斬新な音楽語法のなかに澄んだ美しさを織り込んだ先述の兄ジュアンの4作品、そして作曲家でもありオルガニストでもあった父アルベールの作品を演奏します。

《中村》



写真左から:  
野村 誠、  
箏衛門

## 野村誠の音楽 そこに集まるすべての人が輝きます 10 / 20(日)野村誠&箏衛門 コンサート

野村誠という作曲家 / 音楽家をご存知ですか? これまでには無かった新しい形の音楽の作り手として、大きな注目を集めているのが、野村誠です。彼は、音楽を通して多くの人達の輪を作り上げます。たとえば、老人ホームや小学校などに赴いて一緒に音楽で遊ぶワークショップを行い、参加する人たちによって生み出された様々な素材を集めて、曲を作ります。つまり彼は「僕の書いた曲だ」というように音楽を独り占めにするのではなく、その創作の過程すらも多くの人と共有するのです。さまざまな人たちの想いや感性がひとつの作品として結実していく こうした野村の音楽に、私たちは「未来」のひとつの形を夢見たくります。

いつからでしょうか? 価値のある音楽とは、ごく一握りの「天才」と称される作曲家や演奏家たちが作り上げるものだという見方ばかりになってしまったのは.....

野村誠の音楽に参加する人たちの顔は、演奏する人もそれを聴く人も皆、ニコニコしています。音楽を通して人々が出会い、そこに笑顔が生まれる.....それが野村誠の魅力なのです。

さて、今回の演奏会は、野村誠の自作自演にとどまらず、伝統の枠を超えて今日の新しい音楽を、さまざまなアプローチで取り上げ活動している箏(こと)のアンサンブル・箏衛門(そうえもん)が登場します。そして、演奏会の最後を飾るのは、箏(こと)をテーマに総勢30名が参加して行われるワークショップ(全4回)を通じて完成する新曲発表!! 30面以上の箏が所狭しと舞台に並べられ、さてどのような音が飛び出すのでしょうか?

大人も子供も、男性も女性も、皆がキラキラ輝いて自分を表現し、それぞれの個性を互いに尊重し、おもしろい。そんな素敵なお人の輪を作り上げる野村誠の「未来形」の音楽を、あなたも体験してみませんか?

.....  
「21世紀を生きる僕らの探究する音楽・箏の音をお楽しみください」

野村誠さんインタビュー  
.....

**今回のワークショップと演奏会に、箏という楽器を取り上げられたのは何故ですか?**

野村:僕は1997年から箏の作った作品を毎年書いて

います。箏は自分にとっては、邦楽専門の人のアプローチとは違いますが、馴染みがあり好きな楽器です。調絃も色々使えるし、左手を使った表現も有るし、とても表情豊かな楽器だと思います。和風にもなるし西洋風の表現だってできる幅広さをもっていると思います。

箏衛門のコンサートが今年の2月にあり、彼らに委嘱された僕の作品(52×51)も含まれていたのですが、とても素晴らしい演奏で、その打ち上げのときメンバーの菊地奈緒子さんが、「人からしばしばワークショップで箏の入門曲の1つでもある さくら とかを教えてくれと言われるのですが、お箏のもっと違った世界を知ってみたい」という話があったときに、ちょうど水戸のワークショップの話があり、それで箏衛門と一緒に箏を使って何かやってみようと思ったのです。

**箏衛門について野村さんからご紹介ください。**

野村:非常に若々しいアンサンブルだと思います、リズムも良いし、まだまだこれから色々なことをやっていこうとする意欲的なところが魅力ですね。面白かったのは、メンバーの菊地さんの「古典の作品よりも、野村さんの作品の方が感覚的に自然に演奏できる」という発言です。もちろん古典だってしっかり勉強してきている方なのだけれど、現代的な感性をもっているのだと思います。

**今回演奏される野村さんの作品 52×51、Intermezzo それぞれについて、どのような作品なのか簡単にお教えください。**

野村: 52×51 というタイトルは、この曲の編成と関わりがあり、十三絃の普通の箏が4面で糸の数は全部で52本、十七絃が3面で糸の数は全部で51本となり、2種類の楽器で糸の数は1本の違いであることから付けました。7面の箏それぞれが関係をもたずに演奏をしているところもあれば、対話しているところもあり、時々刻々と曲調が移り変わっていく作品です。

箏の作品ばかりでなく、ピアノの作品も聴いてもらおうと思いプログラムに入れたのが Intermezzo で、昨年、カウンセラーの草柳和之さんから委嘱を受けた作品です。草柳さんはドメスティック・バイオレンス(恋人間・夫婦間など親密

な間柄で起こる暴力)に関わるカウンセリングをしている方で、この曲を通して、そうした暴力を無くしていくことを訴えたいという想いから委嘱された作品です。ですから、できるだけ多くの人に演奏してもらい、聴いてもらいたいと思い書いた、比較的演奏しやすい5分くらいの曲です。

また、演奏会では、他にも何曲か箏のアンサンブル作品が演奏されますので、楽しみにしてください。(編註:チラシ等では予告できませんでしたが、上記作品に加え、沢井比河流 夢の輪、沢井忠夫 展などを箏衛門が演奏する予定です。)

**演奏会でとても楽しみなのが、野村さんもワークショップ参加者も箏衛門のメンバーも皆出演しての新曲発表です。具体的なプランはこれからですが、どのような雰囲気の商品になりそうですか?**

野村:やってみなくては分かりませんが、基本的には9月22、23日のワークショップで色々な音を出して、色々な試みを行い、それらを組み合わせる楽曲を構成しようと思っています。ワークショップの中で参加者の方たちから出てきたものがエネルギーギッシュなものであれば、そういう曲になるでしょうし、ジョン・ケージのようにポツン、ポツンとしたものであればその雰囲気が生かされることとなります。勿論、これらの要素を僕なりに味付けをして、曲を仕上げます。

**最後に、演奏会を聴きに來てくださる方たちに何かメッセージをお願いします。**

野村:従来の箏のレパートリーはやらないので、それは期待しないでください(笑)。だからと言って、訳のわからない実験でもありません。箏はこんな音も出せるのかというのを聴いていただきたいと思います。ですから、箏を好きな人も嫌いな人も、是非聴きに來てください。従来の箏を否定する訳ではなく、21世紀を生きる僕らの探究する音楽・箏の音というものをとお楽しみください。

《中村》





\*nettama=ネットワークする猫、タマ。  
芸術館のコンサートをサカナに  
いるんなところへnettamaします。

近代フランス・オルガン音楽を聴こう!(前編)

あれはもうほんとに昔、僕がこの街にやってきたころ。芸術館のパイプオルガン・プロムナード・コンサートで20世紀フランスの作曲家モリス・デュリュフレの「ジュアン・アランの主題による変奏曲」という曲を聴いた。バッハに代表されるバロック作品以外のオルガン音楽をまるで知らなかった僕にとって、それはまったく新しい体験だった。なんというか響きの霧につつまれて身体ごとどこかにもって行かれるような。以来、19世紀半ば以降のフランスには、独自のオルガン音楽の世界があるらしいと意識するようになった。プロムナード・コンサートの曲目にはしばしばこれらの作品が登場するし、10月のマリー・クレール・アランのリサイタルは、後半が近代フランスの作曲家にそっくり当てられている。

そんなわけで00年10月のバロック・オルガン曲特集以来久々に、この『ネットタマ』コーナーでオルガン音楽を、近代フランスにスポットを当てて紹介してみよう。ただし僕はこのジャンルに限りなく魅せられつつもあまり知識がなく心許ないので、強力な助っ人に援軍を頼みたい。プロムナード・コンサートのアシスタントを5年にわたって行い、古今東西のオルガン音楽がエントランスホールに鳴り響く瞬間を、オルガニストと共に創り続けてきた音楽部門のBさんである。彼女に「これを聴けば近代フランス・オルガン音楽にはまる!」という名曲をいくつか選んでもらい、コメントしてもらおう。

まず近代フランス・オルガン音楽最初の大家というべきセザール・フランク(1822-90)だ。ヴァイオリン・ソナタや交響曲、あるいはピアノ曲、前奏曲、コラールとフーガなどが有名な循環形式と半音階の巨匠だが、数こそ多くないものとても重要なオルガン作品を書い

ていることは、案外知られていない。「フランクはドイツ的なところもあって、音楽の土台がしっかりしています」なるほど、バッハなどのオルガン音楽に慣れ親しんでいる人にとってスムーズに受け入れ易い音楽かもしれない。「ただフランクは、曲によってずっと心に入ってくるものと、理解するのに少し時間がかかるものがあるので、最初の出会いが大切だと思いますね」と言うBさんが「これは絶対のおすすめ」と力説するのが、最晩年に書かれた3つのコラールからの第2番。バッハの「パッサカーリア」を想起させる大曲だ。だが「神とともにある」バッハ音楽の偉容とは異なり、フランクの場合「神を想う」人間の深い祈りの感情がむしる印象的で、そこが強く心をとらえる。彼独特の半音階と転調によって、どこまでも高まってゆくその音楽の訴求力に、ぜひ一度耳を傾けてみていただきたい。ちなみにこの曲は音楽部門でも人気が高く、プロムナード・コンサートで誰かが演奏するときには、S君は仕事を中断してでもエントランスに駆けつける。

「近代フランスのオルガン音楽は、オルガンの響きの可能性をとても広げたと思います。眩しい光で聴く人を包んでしまうような最強音、消え入りそうに繊細な弱音。音色のパレットもすごく豊か。とにかく、聴いていて気持ちがいいんですよ」まったく同感だ。Bさんが推薦するルイ・ヴィエルヌ(1870-1937)の「ウェストミンスター」の鐘を聴けば、それはよくわかる。最初に曲名聴いたとき、え、ウェストミンスターってあれでしょ? 小学校の始業時間とかにも鳴ってるキンコンカンコンっていうあのチャイムでしょ? って首をかしげたけど、いやこれはいい曲です。あの鐘のモチーフを一種のオスティナート音型として使っているんだけど、それがきらきら輝く装飾音に伴われ

ながら声部を変え、音色を変え、積み重なって大クライマックスを形成してゆく様は圧倒的だ。ほんとに聴いて楽しい曲なのだが、Bさんによると「演奏はすごくたいへんなので、みんなそれほど弾かないですね」とのこと。この曲の演奏に当たった方はラッキーといえよう。

こうした「響きの可能性の追求」に大いに力があつたのが、名製作者アリストイド・カヴァイエール(1811-1899)のオルガンなのだそう。彼は古典期のオルガンを発展させ、大幅に音色表現の可能性を広げた。さらに、音色を変えずにクレッシェンドやディミヌエンドといった音量の変化をつけることを可能にした。この「真のロマンティック・オルガン」を通じて、フランクからメシアンにいたる近代フランス・オルガン音楽の偉大な成果が生み出されていったというんだね。

おいおい、もう字数がなくなっちゃったよ。ジュアン・アランの話とかにいかかなかつた。まあ、アランは、10月のマリー・クレール・アランの演奏で聴けるから、あんまり先入観なしで聴いていただくのがいいかな。とにかく、すごい。というわけでアランのリサイタルについてはN君の紹介文をどうぞ。以下次号に続きます。



M-C アラン演奏による「アラン:オルガン作品全集」のCD  
(エラートWPSC10751,10752)

ミト・デラルメンバーの新譜情報を3つ。まずヴァイオリンの寺神戸 亮、ベルギーのアンサンブル「イル・ガルドリーノ」(オーボエのマルセル・ボンセール、ガンバのフィリップ・ピエリロなど豪華な顔ぶれ)のメンバーとして、『18世紀ベルリンのコンサート・ライヴ』というアルバムを発表。ヤニチュ、グラウン、シャフラートの作品が収録されています。(白アクサン[輸入盤])/MDA ちらし裏面でも既報の、鈴木秀美&小

速達

Petite 情報

島芳子の新譜『夢のあとに ロマンズ』が9月25日発売。ロマン派の小曲を集めた注目の内容です。(BMGファンハウス/ドイツ・ハルモニア・ムンディ BVCD31007)また鈴木率いる新しい団体「オーケストラ・リベラ・クラシカ」(森田芳子もメンバー)のデビュー盤も9月中に発売予定。C.P.E.バッハ、ハイドン、モーツァルトの交響曲によるプログラム。(TDK AD-001)

## information

チケットに関するお問い合わせ  
 ...水戸芸術館チケット予約センター / 029-231-8000  
 営業時間 / 9:30 ~ 18:00(月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ  
 ...水戸芸術館音楽部門 / 029-227-8118

【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

【アートタワー通信】第1・第3週に1度、新しいばらき新聞に登場。

小澤&MCO、FM放送のお知らせ! .....  
 聴けなかった方はぜひ。聴けた方は、あの感動をもう一度。NHK-FMにて、水戸室内管弦楽団第50回定期演奏会が放送されます。平 義久の新曲が初演され、宮本文昭のオーボエがモーツァルトを奏で、ハイドン うかつ者がホールを驚きの渦につつんだMCO第50回定期。タクトを振るのはもちろん楽団顧問・小澤征爾です! 放送日時は2002年9月30日(月) 19:20~21:00、NHK-FM「ベスト・オブ・クラシック」にて。6月26日(水)の公演が放送されます。

ミト・デラルコ館外公演のお知らせ! .....  
 【10月10日(木)東京オペラシティ リサイタルホール】  
 お問い合わせ先:松木アートオフィス(TEL:03-5353-6937)、東京オペラシティ・チケットセンター(TEL:03-5353-9999)  
 【10月13日(日)栃木市文化会館】  
 お問い合わせ先:栃木[蔵の街]音楽祭実行委員会(TEL:0282-23-5678)  
 \*プログラム是水戸と基本的に同じ。しかし小島さんの弾くモーツァルトのピアノ・ソロ曲が一部違ってきます。前半のソロ曲 ロンド 二長調 が東京・栃木では メヌエツト 二長調 K.355(576b) / 小ジグト長調 K.574 に、後半の ファンタジア 二短調 が東京では ロンド イ短調 K.511、栃木では アダージェョ 二短調 K.540 になります。全公演聴いても楽しめる今年のMDA!

チケット・インフォメーション 10月5日(土)発売分 .....  
 クリスマス・プレゼント・コンサート 2002  
 12/23(月)17:00開演 料金(全席指定):A席¥3,000 B席¥2,000

これからの演奏会・残席情報 .....  
 ○...残席あり(20席以上) ...残席わずか(20席未満) x...残席なし 中央...中央ブロック 左右・裏...左右ブロックおよびステージ裏 補助...補助席

宮本文昭 オーボエ・リサイタル	10/5(土)	...中央x、左右・裏
ミト・デラルコ 第5回演奏会	10/12(土)	...中央x、左右・裏
バーバラ・ボニー ソプラノ・リサイタル	10/14(月)	...中央x、左右、裏
野村 誠&箏衛門 コンサート	10/20(日)	...自由席
マリー・クレール・アラン オルガン・リサイタル	10/28(月)	...補助
水戸室内管弦楽団第51回定期演奏会	11/9(土)	...中央、左右・裏
	11/10(日)	...中央、左右・裏
水戸室内管弦楽団第52回定期演奏会	11/23(土)	...中央、左右・裏
	11/24(日)	...中央、左右・裏
畑中良輔の 日本のうた セミナー 第2期	12/7(土)	...自由席
	2003年3/15(土)	...自由席

9/15(日)現在の状況です。  
 公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問合せ下さい。  
 固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

## 水戸芸術館10月のスケジュール

### コンサートホールATM

水戸芸術館友会の会結成10周年プレ企画事業 宮本文昭 オーボエ・リサイタル  
 10/5(土)18:30開演 料金(全席指定):会員¥2,500 一般¥3,500  
 ミト・デラルコ 第5回演奏会 モーツァルト、嬉遊曲のかなたに  
 10/12(土)18:30開演 料金(全席指定):A席¥3,000 B席¥2,000  
 バーバラ・ボニー ソプラノ・リサイタル  
 10/14(月)14:00開演 料金(全席指定):A席¥6,000 B席¥4,500 P席¥3,000  
 野村 誠&箏衛門 コンサート  
 10/20(日)14:00開演 料金(全席自由):大人¥1,000 小・中・高生¥500  
 水戸市立石川中学校・創立20周年記念コンサート  
 10/27(日)開演時間未定 入場無料

### エントランスホール

パイプオルガン プロムナード・コンサート  
 10/6(日)12:00/13:30 10/26(土)13:30/15:00  
 ヴァリエーションズ  
 茨城県内の演奏家による、さまざまな器楽や声楽が登場する新しい演奏会シリーズ  
 10/13(日)12:00/13:30 ロワソ・サクソフーンカルテット  
 宴や夜市(泉町商店会)関連企画  
 10/25(金)18:00  
 入場無料 演奏は各回20分程度です。  
 エントランスで踊ってみる16『travelling』  
 10/12(土)16:00開演 入場無料  
 マリー・クレール・アラン オルガン・リサイタル  
 10/28(月)18:30開演 料金(全席指定):A席¥3,500 B席¥2,500

### ACM劇場

ACMリーディング・シアター4 三島由紀夫作 近代能楽集より「葵上」「熊野」  
 10/11(金)19:00開演、10/12(土)19:00開演、10/13(日)16:00開演、10/14(月)16:00開演 料金(全席自由):¥1,000

### 現代美術センター

12人の挑戦 大観から日比野まで  
 10/5(土)~12/8(日)9:30~18:00(入場は17:30まで)  
 休館日:月曜日ただし10/14(月)は開館、10/15(火)は休館  
 入場料:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600 中学生以下、65歳以上、各種障害者手帳をお持ちの方は無料

## 茨城の主な10月の演奏会

常陽藝文センター TEL / 029(231)6611 山口泉恵 ピアノ・リサイタル  
 10/6(日)14:30開演 (問)山口 TEL / 0299(22)3483 婦人会館チャリティーコンサート 「高山三智子ピアノリサイタル&トーク」 10/25(金)13:30開演 (問)財団法人茨城県婦人会館 TEL / 029(221)7195 イバラキ ミュージックアカデミー 第1回定期演奏会 10/27(日)15:00開演 (問)イバラキ ミュージックアカデミー TEL / 029(247)6036

茨城県民文化センター TEL / 029(241)1166 ハンガリー国立歌劇場「カルメン」 10/13(日)17:00開演

水戸市民会館 TEL / 029(224)7521 イ・ソリスト・イバラキ室内合奏団 第31回演奏会 10/20(日)14:00開演 KAWAI CONCERT 2002 ピアノ・リサイタル ガリーナ・チスチャコヴァ 10/30(水)18:30開演

ひたちなか市文化会館 TEL / 029(275)1122 第28回東京芸術大学同声会茨城支部演奏会 10/13(日)14:00開演 (問)芸大同声会茨城支部 TEL / 029(276)0327 《クラシック音楽活性化事業》 フランダース・リコーダー・カルテット 10/25(金)19:00開演

大宮町文化センター・ロゼホール TEL / 0295(53)7200 チェコ・フィルハーモニー室内管弦楽団&天満敦子 10/25(金)18:30開演

ギター文化館 TEL / 0299(46)2457 オスカル・ロベルト・カサレス ギター・リサイタル 10/5(土)15:00開演

リパホール TEL / 0298(52)5881 カルテット・ストラディヴァリ・イタリア 10/14(月)15:00開演 スロヴァキア室内オーケストラ 10/18(金)19:00開演

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ] 2002年10月発行 第85号  
 編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8  
 TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130  
 e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]  
 編集 / 水戸芸術館音楽部門(五十音順):関根哲也 中崎美智代 中村 晃 馬場千恵  
 松田善幸 矢沢孝樹(編集長)  
 DTP / office west  
 印刷所 / 株式会社あけぼの印刷社

次号は... MCO特集!